

■ 調査レポート

本公社アンケートによる県内経済動向

【調査の概要】

平成21年4月末時点調査（郵送法）
調査対象 県内1,000社
回答企業426社（回答率42.6%）

～ 小動きの景況感・今後の見通しに期待 ～

【全産業主要D I 値】（表1）

業況判断指数(※1)は、「前年同月比」では、生産・販売高が▲64.4と前回調査(1月調査:▲62.6)よりも1.8ポイントマイナス(表1参照)の結果となったが、営業利益は▲60.0と前回調査より2.4ポイントプラス、資金繰りは▲43.9と同1.4ポイントプラス、事業業況▲66.0と同0.1ポイントマイナスとなり、依然厳しい状況にあるが、一部改善がみられた小動きの景況感となった。

また、今回調査の「3ヶ月先見通しD I 値」では、すべての項目でポイントがマイナス(生産・販売高▲24.3、営業利益▲42.2、資金繰り▲41.2、事業業況▲46.4)となっているが、前回調査とのD I 値差異(表1参照)でみると、すべての項目でプラス基調となっている。現在の雇用情勢や経済状況からみると、本格的な改善傾向と見ることはできないが、製造業を中心とした今年1月以降の生産・在庫調整や政府の追加経済対策が一定の効果を果たし、マイナス幅が縮小されつつあることが窺える。

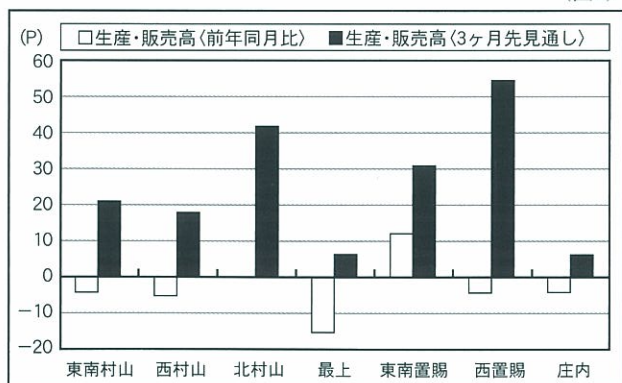
全産業の主要項目（前回調査1月と今回調査4月 D I 値の差異）

（表1）

項目	生産・販売高	営業利益	資金繰り	事業業況
前年同月比	▲ 1.8	2.4	1.4	▲ 0.1
3ヶ月先見通し	20.9	13.2	9.5	11.5

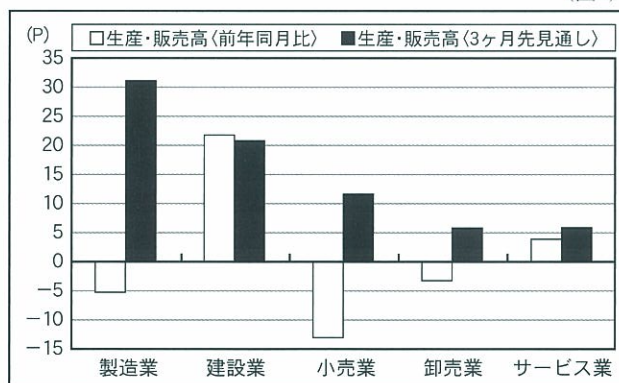
地域別の動き（生産・販売:前回調査との差異）

（図1）



業種別の動き（生産・販売:前回調査との差異）

（図2）



【地域別に比較した特長】

今回調査D I 値を前年同月比でみると、各地域（東南村山▲62.4、西村山▲76.3、北村山▲69.0、最上▲86.4、東南置賜▲55.6、西置賜▲83.3庄内▲58.0）とも前回調査同様に大幅なマイナスとなっている。一方、前回調査とのD I 値差異（図1:白棒）では、東南置賜地域だけがプラスの結果となっているが、基本となるD I 値は他地域同様依然大きなマイナスを示している。

3ヶ月先見通しでみると、各地域（東南村山▲27.0、西村山▲21.1、北村山▲3.4、最上▲27.3、東南置賜▲20.4、西置賜▲5.5、庄内▲33.0）ともマイナスとなっているが、前回調査とのD I 値差異（図1:黒棒）では、全地域でプラス（東南村山21.1、西村山17.6、北村山41.5、最上6.1、東南置賜30.5、西置賜54.5、庄内6.1）となっており、特に北村山地域と東南・西置賜地域でのプラス幅が拡大している結果となっている。

【業種別に比較した特長】

前年同月比の今回調査D I 値は、各業種（製造業▲70.6、建設業▲50.0、小売業▲62.7、卸売業▲45.0、サービス業▲69.6）とも大幅なマイナスになっており、依然厳しい状況が続いているが、前回調査とのD I 値差異（図2:白棒）では、D I 値そのもののマイナス幅の縮小傾向がみられる。

3ヶ月先見通しのD I 値は、全業種（製造業▲12.3、建設業▲40.0、小売業▲38.7、卸売業▲17.5、サービス業▲41.1）ともマイナスの結果となっているが、前回調査とのD I 値差異（図2:黒棒）では各業種ともプラス傾向に転じており、依然、厳しい経営環境ながらも先行きへの期待感が窺える。

（※1）D I :「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数